日本語学校に通う韓国人留学生たちのパーソナル・ネットワーク形成過程の分析(1)[1)]

鄭 根 河*
(e-mail: wrg3141@naver.com)

目 次

1. 本研究の背景
2. 調査方法
3. 韓国人留学生に関する先行研究
4. 韓国人留学生のパーソナル・ネットワーク形成分析
5. 結論

1. 本研究の背景

筆者は修士(2006年)の時、日本における韓国系キリスト教会の成長の分析[2)]を通して、クリスチャン留学生の実態と教会の役割を明らかにした。クリスチャン留学生たちは慣れない異国での言葉の問題をはじめ、生活上のストレスを教会のメンバーたちのサポートを通して解決し、またパーソナル・ネットワークまでを形成していたのである。しかし来日している留学生の中でクリスチャン留学生は一部の人たちに過ぎないのである。

2006年3月、訪日韓国人への短期滞在ビザ免除措置などによって、韓国からの訪日客

* 社会学博士/日本学

1) 本研究は、韓国人留学生の留学ルートとパーソナル・ネットワークの形成過程を分析したものであり、続きの(2)では、留学生たちのインターネット活用方法を詳しく論じる。

2) 鄭根河(2009)「日本における韓国教会の成長要因に関する研究」『日本文化学報』第41輯、韓国日本文化学会

www.kci.go.kr

は200万人を突破し、2007年現在、来日する韓国人は206万人を上回った[3]と言われている。その200万人中、クリスチャン人口がどのくらいいるのかは分からないが、韓国統計庁の2005年報告書[4]から大体の推測はできると思われる。報告書によると、韓国のクリスチャン人口は(キリスト教とカトリックを合わせて)29.3%とされており、韓国社会の一翼を担っているが、全体の人口からクリスチャン人口というのは一部の人たちと言っても過言ではない。それを延長して考えてみれば、来日している全体の留学生の中でクリスチャン留学生が一部であることは容易に推測できる。

少数にもかかわらずクリスチャン留学生たちは、教会を通してソーシャル・サポートをはじめソーシャル・スキル、パーソナル・ネットワーク形成までを教会で解決しているのに対し[5]、大勢を占めている一般の留学生たちのパーソナル・ネットワーク形成過程はまだ明らかになっていない。また、それに関する研究も見当たらない。

本研究は韓国人留学生たちの留学する前と、留学してからのパーソナル・ネットワークがどこで形成されているのか、その過程を明らかにする研究である。

2. 調査方法

本調査は日本語学校に通う韓国人留学生が何人いるかという母集団の数字が分かり難い調査である。この調査はどちらかというと事例の量の多い事例研究、つまり半標準化された質問紙調査(アンケート調査)であり、統計的標本調査ではない。また、この調査は全問自由記述様式になっている。そしてインタビュー調査や参与観察調査を行い、取ったデータを分析したものである。

本調査は2008年7月から10月まで、約4カ月を掛けて行われた。対象は東京都内にある約156校の日本語学校[6]のうち、韓国人留学生が多い42校を選び、電話やファクスを送ったり、あるいは直接訪問をして質問紙調査を依頼した。しかし25校の日本語学校が調査を拒否し、また3校は質問紙調査用紙を送ったが一枚も帰って来なかった。総計1500枚の質問紙を準備し、17校の日本語学校に配ったが、回収されたのは半分以下の463枚だった。さらに、回収された調査票の中には、まったく回答されなかったもの14枚と、字がまったく読めなかったもの18枚、計32枚があったのでそれは外した。本研究は431枚の調査票を統

---

3) http://www2.ttcn.ne.jp/~honkawa/index_rank.htm社会実情デー図のムジ (2009年11月検索)

4) 韓国統計庁『韓国宗教人口統計2005』では、韓国人人口の23%が仏教徒、18.3%はキリスト教信者(プロテスタント)、11%がカトリック信者、そして46.5%の人が無宗教であると発表されている。http://www.nhrd.net/nhrd-app/jsp/tre0302.jsp?sSeq=20060261

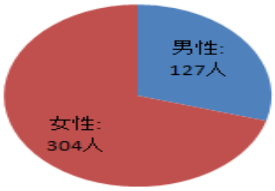
5) 韓国系キリスト教会の役割に関する研究は先行研究で紹介する。

6) http://www.aikgroup.co.jp/j-school/japanese/index.htm、全国日本語学校データベース(2008年7月検索)

www.kci.go.kr

計法ではなく集計結果だけ数えて分析したものである。

図1)　調査に協力してくれた留学生たちの性比



それから、事例調査の特徴とも言える「予想しなかった結果」[7]が続出したため、筆者はインタビュー調査を行いデータを取った。また、東京の新宿周辺にある韓国系キリスト教会、2個所を選び、参与観察を行った。特に、T教会で筆者は、2008年10月から2009年10月まで新しい信徒の信仰教育を担当していた。そのお陰で筆者はニューカマー留学生(86人)たちから有効なデータが取れた。また、インターネットで「東京ピンポン」という韓国人卓球同好会を見つけた。この同好会は毎週の土曜日、東京都の中野区中野体育館で練習を行っており、筆者もこの同好会に約3カ月間参加し、彼らと一緒にプレーしながらデータを取った。

3. 韓国人留学生に関する先行研究

3.1 日本における韓国人留学生の歴史考察

金範洙(2006)は博士論文で渡日朝鮮留学生を時代別に区分しており、また朴鶴哲(1998)は韓国人の日本への留学は1881年(朝鮮時代)から始まったと報告している。

表1)　第一期の留学生統計(朝鮮留学生推移[8])

1895年4月	1895年5月	1897年	1898年
114人	26人	64人	47人

第1期(1881～1905)は、50人前後の優秀な政府官僚たちで構成された少人数の団体留学であった。この時期の日本には韓国人(朝鮮人)のネットワークが作られていなかったと思われる。当時の留学生は政府官僚たち、つまり来日する前から知り合いであると同時に、留学先も決まっていたので彼らの行動範囲は狭かったと思われる。

第2期(1905～1910)は、私費留学生が中心の留学で1905年11月の第2次日韓協約「保護条約」から1910年8月「韓日合併」までの大韓帝国の主権が制限された時期である。韓末の渡日韓国留学生運動は、朝鮮民族運動史上で極めて高く評価されている。1904年韓日

7) 9月なのに留学生の中には現役高校3年生が17人(日本の大学の進学が決まっていた)もいたことや大学生より会社を辞めて来日した人が多かったこと、インターネットを通して全然知らない人同士が実際会っていることなど、質問紙調査では把握できない状況が生じたのでインタビュー調査を行った。

8) 金泳謨 (1982) 『留学生に対する一考「朝鮮支配層研究」』一湖閣、pp420-423

議定書が採決され個人の留学が現れる。乙巳条約[9]以降留学の意識も変り始める。

留学生の出身と類型は朝鮮政府の高官官僚の子やその親戚(官費留学生)、地方の有力者の子供たち(私費留学生)が中心で、当時の留学の目的は国民啓蒙、国権回復運動を(留学生保護団体や留学生団体が出現)展開するためだった。

第3期(1910～1945)は、1910年8月、韓日合併から1945年8月、朝鮮が日本の植民地支配下におかれていた時期を指す。この時期は私費留学生の激増傾向が続き、朝鮮留学生社会は一元的にとらえにくいものになった。在日朝鮮人社会や「内地朝鮮学生」の増加、さらに総督府の留学生政策及び留学生監督体制は「韓日合併」初期の留学生の取り締まりから、1919年の3·1独立運動を経て次第に変わっていった。1930年代末になると、朝鮮留学生運動は社会主義者たちの弾圧によって厳しい状況に直面する。さらに1940年代に入ると、留学生政策は「帝国臣民」の養成「内鮮一体」の推進に重点が置かれることになる。1941年に創立された「朝鮮奨学会」は、そのための留学生監督機関であり、同奨学会の奨学事業は有名無実であった。まさに朝鮮総督府の留学生監督体制の完成版ともいえる「朝鮮奨学会」は、朝鮮留学生を統制する団体として、戦時体制に入ると朝鮮留学生を戦争に動員するための活動を遂行する。この時期の留学の目的は日本の文化統治が始められ、留学生の専門分野が多様化される(新知識の獲得)。独立国家、植民地支配からの解放のために実質的な運動が留学生たちから現れる。

表2) 朝鮮留学生推移[10]

	1910年	11年	12年	13年	14年	15年	16年	17年	18年
官費	32人	44人	50人	47人	47人	26人	29人	17人	30人
私費			485人	635人	535人	581人	545人	641人	739人
	1919年	1920年	1925年	1930年	1940年	1942年			
官費	47人	千人以上	3千人以上	千人以上	2万人以上	3万人以上			
私費	631人								

1910年から1945年までの朝鮮人渡航管理や内地(日本)の朝鮮人人口調査[11]により韓国人移民者の来日パターンが報告されている。在日朝鮮人の渡航史からは、日本敗戦

9) 1905年日本が朝鮮の外交権を剥奪するために朝鮮と強制的に交わした条約。

10) 김인덕(1989)「日本地域留学生の2·8運動と3·1運動」『韓国独立運動史研究13』独立記念運動史研究所、p4

11) 田村紀之 (1981年2月～1982年7月) 「内務省警保局調査による朝鮮人人口」『経済と経済学』、内閣統計局『国勢調査報告』

www.kci.go.kr

以前には単身で日本にわたり、後に家族を呼び寄せるケース、つまり連鎖移住(Chain Migration) が最も多いと原尻英樹(原尻 1989：63)は推測している。また、一般の朝鮮人とは異なる渡航管理政策が行われた済州島民の移民者研究がある[12)]。『土工紡績工鉱夫としての朝鮮人労働者』研究では、紡績工場で働くほとんどの人が済州島出身であったことから見て、やはり地縁や血縁によって集団が形成されていたと推測した。

そして戦後、1945年以後から1965年まで韓国と日本の間には国交が断絶され、留学生の交流はなかった。そのため韓国人留学生研究はないと言っても過言ではない[13)]。それから留学が再開されたのは1980年以後のことである。韓国政府は1980年から海外留学を自由化にし、1988年には海外旅行自由化を宣言した。筆者は1980年から1997年までを留学の第4期にしたいと思っている。第4期の特徴は、留学を専門に斡旋する会社が登場したことにある(市場媒介型移住システム、市場交換)[14)]。留学を専門に斡旋する留学院というのは、海外旅行の手続きをはじめ留学の手続き、パスポートに関する仕事を代行する旅行斡旋会社のことを指す[15)]。留学院は1980年からソウルを中心として現われはじめ、1992年には韓国留学協会[16)]が結成されるようになった。この頃から留学院は外国語の教育や留学の斡旋を担当するようになり、今は留学の伝統的なルートとして定着している。

第4期の留学や移民の特徴として高鮮徽(高1997)の研究をはじめ、文貞実[17)]の「東京・荒川の済州島・高内里出身者の居住史」の研究、谷富夫(谷2002)の大阪における済州島出身の研究がある。この時期まではやはり地縁や血縁に頼って来日し、パーソナル・ネットワークを形成するパターン、つまり相互扶助型移住システムに乗って来日していた。

また留学の第5期は1997年から現在までにしたいと思っている。この時期は韓国社会に高速インターネットが一般の人たちにまで急速に普及し始めた時期であり、この時期は留学の伝統的な方法だと思われていた家族や親戚、友人、地元の人脈に頼った移動(相互扶助型移住システム：互酬)[18)]と留学院(市場媒介型移住システム：市場交換)を経由した方法にインターネットが加えられた。つまり伝統的な留学ルート以外に、独力で留学に必要な情報を入手し、手続きまで済ます留学生たちが現れ始めた時期でもある。

3.2 韓国人留学生たちのパーソナル・ネットワーク形成過程の変遷の分析

---

12) 東京地方職業紹介事務局 (1925) 『土工紡績工鉱夫としての朝鮮人労働者』

13) 朝鮮人移民研究は、原尻英樹(原尻 1989：63)、東京地方職業紹介事務局(1925)、谷富夫(谷2002)などの研究があるが、留学生に関する研究は(金範洙(2006)の博士論文には1945年までの留学生である)見当たらなかった。

14) 市場交換とは、貨幣を媒介した任意の相手との取引である。

15) 留学院によっては外国語塾を一緒に経営する場合がある。

16) http://www.kosaworld.org/ (2009年11月検索)

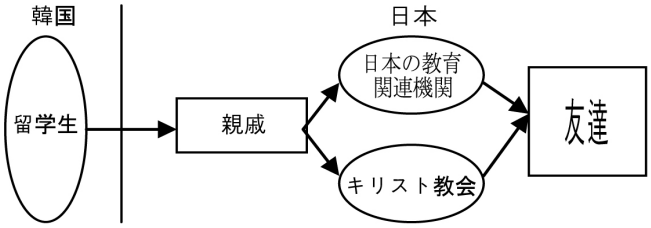
17) 奥田道大/広田康生/田嶋淳子 (1994年) 『外国人居住者と日本の地域社会』明石書店、p129

18) 互酬とは長く付き合う相手との相互扶助関係である。

www.kci.go.kr

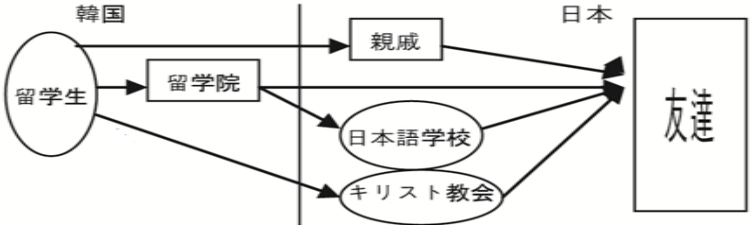
先述したように、第一、二、三期の留学生たちは親戚に頼る留学が一般的だった。

図1)　斡旋業者「留学院」がなかった1980年以前の留学ルート及び友達作り



そして1980年代からは韓国政府の留学自由化と海外旅行自由化により海外旅行・留学・移民を専門とする斡旋業者「留学院」が現われ、親戚に頼らず、お金さえ払えばどこでも斡旋され、移動できる時代になった。しかし、この時期までは親戚を含む身近な人に頼る傾向があり、また海外で活動する教会の存在は留学生を含む、移民者たちにパーソナル・ネットワークを形成する重要な場としての役割を果たしていた。これに関する研究はコン(Kwon 1997)のヒューストンにおける研究、ユン(Yoon 1998)のアトランタにおける研究、田嶋淳子(1998)の研究、また林永彦(2004)の研究と筆者(鄭　2009)の研究がある。これらの研究から、教会は信仰のためだけでなく、礼拝や行事を通して新しいパーソナル・ネットワークが形成され、情報の交換を含んだ物質的・精神的なサポートを得ていたと報告されている。

図2)　1980年代斡旋業者「留学院」ができてからの留学ルート及び友達作り

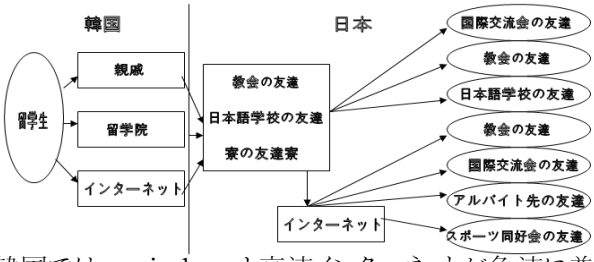


彼らの研究を分析して見ると、今までの移民者たちは、対面接触の頻度がパーソナル・ネットワーク形成の最も重要な要因であった。つまり、今までは地縁、血縁、社縁、学校縁という社会学的属性の共有がパーソナル・ネットワーク形成の重要な要因だった。しかし、インターネットの普及により、これまで見も知らぬ、縁もゆかりもない人々が、共通の関心(趣味)だけをたよりに、インターネットサイトに集まり、新しいパーソナル・ネットワークを形成している。こうしたインターネットサイト上で、出会うような縁を、池田謙一(1997：10)は既存の地縁、血縁などと対比して「情報縁」と呼んだ[19]。

www.kci.go.kr

19) 川上善郎・川浦康至・池田謙一・古川良治 (1993) 『電子ネットワーキングの社会心理:コン

図3) インターネットの普及による留学ルート及び友達作りの多様化



1998年以降韓国では、windowsと高速インターネットが急速に普及し、携帯電話とともに生活を営むうえで、なくてはならない存在となった。インターネットの普及は一般人のパーソナル・ネットワーク形成にも影響を与え、顔も、名前も知らない匿名の人とパーソナル・ネットワークが成立できる時代へと変えたのである。

3.3 インターネットサイトを通して形成されるパーソナル・ネットワーク

宮田加久子(2005a：63　64)の報告によると、弱い紐帯と思われているインターネットのサイトに自分を公開すると、全く知らない個人に実質的に繋がったとしている。また韓国での実験[20]でもインターネットのサイトを通して物質的な援助が得られることが確認された。こうした援助方法は、これまで見られなかった援助方法である。それはNPOやNGOという団体が公式的なルートを通して人道的な支援をする傾向とは異なる性格の支援である。言い換えると、これまでは対面関係のある人によって物質的・心理的な援助が施されたが現在は「弱い紐帯のインターネットサイト」を通して、匿名の人たちから物質的な援助はもちろん、心理的な面まで癒されるなど、インターネットの機能の領域が広がっていることが確認された。

このように現在のインターネットは情報獲得という一次元的な機能以外に、弱い紐帯の人たちからのソーシャル・スキルやソーシャル・サポートが期待される人情が感じられる場としての機能が追加されたと言っても過言ではない。

今の韓国人留学生たちは「弱い紐帯のインターネットサイト」に例えられる、インターネットCafé(本論文ではDaum　Caféの「동경유학생모임」)を利用して、留学する前はもちろん、来日してからも匿名の人たちにソーシャル・スキルとソーシャル・サポートを求め、ついにはパーソナル・ネットワークまで形成されているのが確認された。

ピュータ・コミュニケーションへのパスポート』誠信書房
池田謙一 (1997) 『ネットワーキング・コミュニティ』東京大学出版会、p10

20) 教育放送EBSでは「リアル実験プロジェクトX」(http://home.ebs.co.kr/x/index.html)という実験番組を通して「インターネットだけの一ヶ月生活」という実験を行い、本当にインターネットだけで生活できるのか実験を行った。

www.kci.go.kr

4．韓国人留学生のパーソナル･ネットワーク形成過程の分析

4.1　調査に協力してくれた韓国留学生の分析

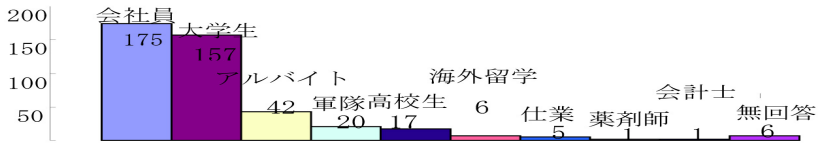
今回の調査で興味深かったのは、韓国人就学生･留学生の男女の割合であった。それは女子のほうが男子より3倍近く多かったという点である。東京入国管理局の統計には、各国の留学生の数は数えられているが[21]男女別の就学生･留学生の区分はできておらず、韓国人留学生の性比は日本語学校で調べるしかなかった。しかし日本語学校でも男女比の情報は残念ながら教えてくれなかった。表3)は法務省の統計を見ても、全体的に女性の方が多い。

表3)2008年度、日本で生活している韓国人の男女別、年齢別の人口[22](20代から40代までの統計)

韓国人滞在総数 589,239人		20～24歳		25～29歳		30～34歳		35～39歳	
男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
270,236	319,003	16,402	22,242	24,745	26,487	24,584	25,553	24,837	28,944

調査に協力してくれた留学生たちの年齢は、10代が17人、20～25歳の人が229人、26～30歳の人が157人、30代の人が26人、40代の人が2人であった。その中で20代が386人で今回の調査の9割を占めていた。そして留学生たちに、来日する前は何をしていたのかを聞いた。その結果、意外な結果が出た。それは現役大学生より「社会人」の方が多かったということである。つまり会社で勤めていた人たちが会社を辞めて留学に来ているわけである。(筆者の博士論文[23]に詳しく述べているが、会社を辞めて来日した理由で一番多かったのは、今じゃないと留学するチャンスがないからだった)

図4) 留学前の身分分析



そして今回の調査に協力してくれた韓国人留学生の滞在資格の種類を見てみると、就学

---

21)　就学生については，中国が9,543人で全体の49.9％を占めており，これに韓国が4,673人(24.4％)で続いている。平成17年と比べ中国は605人(6.8％)増、韓国は380人(8.9％)増と増加している。http://www.moj.go.jp/NYUKAN/nyukan67-2.pdf（2009年11月検索）

22) http://www.e-stat.go.jp/SG1/estat/List.do?lid=000001057947(法務省、2011年4月検索)

23) 鄭根河(2010)『東京における韓国人留学生のパーソナル・ネットワーク形成過程の分析―頼れるパーソナル・ネットワークはどこで作られているのか―』、首都大学東京人文科学研究科博士論文

ビザの人が圧倒的に多く372人、それに続いてワーキング・ホリデービザ23人、留学ビザ22人、研修ビザ6人、観光ビザ4人、家族ビザが4人であった。

4.2 留学生たちの来日する前のパーソナル・ネットワーク形成過程の分析

かつての留学というのは、移民と同じく家族や親戚などの対面頻度が高かった人たち、つまり第一次的関係にある人に頼るのが一般的だった。しかし今回の調査で明らかになったのは、親戚に頼る留学は衰退しているということである。

今回の調査に協力してくれた留学生の中で、日本に親戚がいる66人のうち、その半分の33人が親戚に援助をしてもらったが、頼りになると答えた人は僅か7人で、一緒に住む人はたったの2人しかいなかった。そして31人は何の援助も貰っていないと答えており、逆に何も求めなかったと答えた。これは地縁や血縁に基づく伝統的な人間関係から解放されることにより、人間関係が「個人により選択され、選択し直される」可能性が高くなったという知見を示している。それでは、第一次的関係に頼らない韓国人留学生たちの社会的なネットワークの形成過程を見て見よう。

韓国社会で留学を考えている人のほとんどは、留学院という外国語塾で留学先の言語を覚えながら、留学準備をするのが一般的である。留学院では留学先の言語を教える以外に、留学先の学校の紹介をはじめ、部屋の斡旋などの業務を兼ねてやっている。また留学院は、留学準備班というクラスを結成し、留学の前に頼り合う友達ができるよう、環境を作っていた。今回の調査では197人が留学院で留学の情報を得ていたと答えており、その中の57人が頼れる人だと答えている。韓国人留学生は留学院を通して留学を準備し、またパーソナル・ネットワークを形成していたのである。

柳さん(24歳、女性、国書日本語学校)

ある日、留学院で留学説明会があると聞き、参加しました。説明会には30人くらいの人たちが集まっており、留学院関係者の説明を熱心に聞いていました。みんな知らない人たちでしたが、同じ目標を持っているせいか皆、気軽に話しあったりして、話が進みました。そこで私は崔さんという2歳年上の女の人と話が合うことに気が付き、一緒に留学準備して来日し、彼女と同じ日本語学校に通っていますし、部屋も一緒で毎日一緒です。

多くの留学生たちが留学院を通してパーソナル・ネットワークを作っていたが、さらに韓国人留学生たちはインターネットサイトを介したパーソナル・ネットワークを作っていた(以下の内容は「동경유학생모임」というサイトの内容を筆者が翻訳したものである[24])。

24) サイトの内容を直接引用した理由は、留学生たちの情報収集や友達作りの場が「동경유학생모임」であったという証言が多かったからである。また、留学生たちはこのサイトを活発に利用していることを証明するためである。

www.kci.go.kr

ID:nya1212（http://cafe.daum.net/japantokyo/KeA/1799）
友達になってください。来年2月末か3月初旬に出国予定です。情報交換できる友達を探しています。私は86年生まれの女の子で、ソウルに住んでいます。
以下はコメント
ID:아뮤：私も86年生まれの女の子です。今、ワーキング・ホリデービザで東京に来ています。友達になりましょう。

ID:꺄악이(http://cafe.daum.net/japantokyo/A6T/13034)
こんにちは。4月にイーストウェスト日本語学校に行く83年生まれのインボラと申します。来日する日が近づくにつれ、不安で心が騒いでいます。それで友達を探しています。実は私、日本語があまりしゃべれないですから、一人では無理だと思っています。どうかお助けを。とにかく友達になりましょう。私のメールとMSNのID、携帯番号を書いておきます。hyukbora@～com、016　000　0000、ご連絡お待ちしております。よろしくお願いします。
以下はコメント
ID:김은미: 私よりお姉さんですね。やはり女一人きりの出国は怖いですね。
ID:노종옥: 私は31日出国です。金浦の大韓航空の午前便です。ルームメートと一緒に出発しますが、その人は千駄ヶ谷日本語学校です。来日したら学校で会おう。
ID:짱구스머프: 私よりお姉さんですね。私は28日出国しますが、私と同じ学校です。

安さん(32歳、女性、美術家)

私は留学する前に、東京にあるZ教会のホームページに辿り着き、ホームページの掲示板を利用し、学校の情報、寮の情報などの助言を求めました。すると教会の人たちがとても親切に様々な情報を提供してくれました。留学はとても寂しく、長いトンネルみたいなもんだと言われていましたが、教会の人たちとホームページで知り合い、すぐ友達になりました。

黄さん(24歳、女性 、ワーキング・ホリデービザ)

私は大学を卒業してから薬剤師として薬局で働いていました。結構楽しかったですが、薬を作ると今までなかった皮膚荒れや気管支の副作用が出始めたので…休養を兼ねて日本行きを決めましたが、始めての外国ですし、親戚も友達もいない状況だったので、すごく心配でした。友達からは留学院に相談するようアドバイスを受けましたが、留学院は学生たちを稼ぎの手段としてしか考えていないから信じられなかったです。それで私は約1ヶ月にかけてインターネット検索をして部屋のルームメートをはじめ、アルバイトまで見つけました。

このように、今の留学生たちは留学する前にインターネットサイトの人たちを利用して様々な情報を得ているだけでなく、かつての留学生たちが経験したことのない方法でパーソナル・ネットワークを作っていることが分かる。つまり、インターネットが普及される前までは、対

www.kci.go.kr

面接触の頻度により信頼できる人間関係が形成されたが、インターネットが普及すると、第二次的関係・接触[25]によるパーソナル・ネットワークまでも省略されている。それは相手との対面的な接触や共有する経験がなくても、ただ同じ興味を持つだけで架空の空間インターネットサイトでは、パーソナル・ネットワークが形成されることを示している。

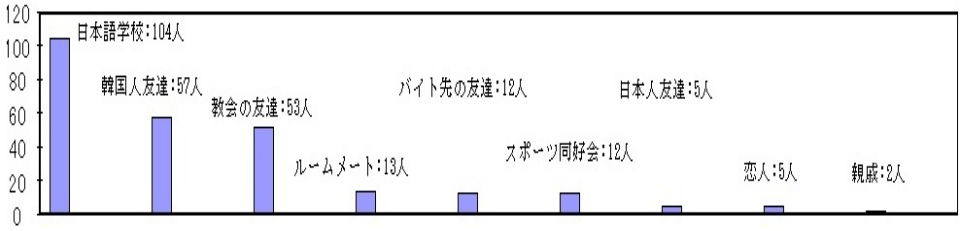
今の韓国人留学生たちの留学する前のパーソナル・ネットワーク形成過程を纏めると以下の通りである。

①第一次的関係のパーソナル・ネットワーク、血縁関係の人々(作られているネットワーク)
②留学院を通してパーソナル・ネットワークを形成している。
③インターネットサイトを通してパーソナル・ネットワークを形成している。

4.3 来日してからの留学生たちのパーソナル・ネットワーク形成過程の分析

今回の調査に協力してくれた留学生たちは、日本に頼れる人はいるのか？という質問に262人の人が頼れる人がいると答えた。それに対し143人の人たちは身寄りのないまま来日したと答えた(26人は無応答)。それでは頼れる人とはいったいどういう人たちなのか、それは以下の通りである。

図5)頼れる人の区分(頼れる人がいると答えた262人)



内訳を見てみると、今通っている日本語学校の友達が一番頼れると104人が答えた。これは来日歴の短さと留学生たちの行動範囲の狭さを物語っている(調査対象者の281人の人たちが1年未満である)。日本語学校の人というのは毎日、顔を合わせており、他の出会いより、もっとも長い時間を共有する関係なので、お互いに期待や不満を共有する信頼できる存在となるのである。彼らにはヘクター(Hechter　1999)のいう「相互作用的連帯」が形成されるというわけである[26]。つまり月曜日から金曜日まで顔を合わせているからこそ、共属感情や親密感が芽生え信頼し合う、相互作用的連帯意識を持つようになるのである。

その次に頼れる人として留学生たちが挙げたのが、韓国人友達であった(57人)。これは

---

25) 森岡清志(2000年)『都市社会の人間関係』放送大学教材、pp19-20
社会学では第二次的関係・接触は、目的を達成するための短期的一時的なつながりであり、対面的接触を伴うとしても親密ではなく、皮相的で非人格的な関係であるとされている。デパートや商店における店員と客との関係、役所の窓口における係員と住民などが第二次的関係の典型である。

26) Hechter, Michael, 1999, Internal Colonialism: The Celtic Fringe in British National Development, University of CaliforniaPress.

www.kci.go.kr

来日する前から知り合っていた友達のことを指していると思われる。これは友達の方が親戚より相手にしやすいことを物語っている。それから、52人の人が韓国系キリスト教会で出会った人たちが頼りになると答えた。またルームメートを挙げた人は13人、アルバイト先で出会った友達を挙げた人は12人、日本語スタディーグループや同好会(スポーツ)の友達を挙げた人が合わせて12人、日本人の友達や恋人が頼りになると答えた人が各々5人ずつだった。そして親戚は2人だけが頼りになる存在だと答えた。

4.3.1　血縁のパーソナル・ネットワーク

今回の調査で一番意外だったのは、血縁社会とも言われていた韓国人社会が今はその機能があまり機能していないことであった。今までの移民は家族や親戚などの身内を頼りにする連鎖移住(Chain　Migration)が常識だったし、また血縁は誰よりも頼もしくて確かなパーソナル・ネットワークだった。しかし今回の調査ではその血縁に頼る留学生は非常に少なかった。今回の調査では431人中、66人が日本に親戚がいたが、その半分の33人は親戚に援助をしてもらったと答え、他の31人は頼らなかったと答えた。親戚の援助として留学生たちが挙げたのは次の通りである(複数の援助内容が多かった)。

①部屋を借りる際、必要である保証人になってくれた：18人
②お小遣いをくれた：14人
③日本での生活に関する助言や相談に乗ってくれた：13人
④部屋の情報提供：5人
⑤旅行の案内人になってくれた：4人
⑥アルバイトの紹介：4人

半分くらいの人は親戚に色々世話になり援助してもらっているのは事実であるが、親戚が頼りになると答えた人はわずか7人しかいなかった。その中の2人は親戚と一緒に生活していたが、彼女らも「できれば一人暮らしをしたい」と言っていた。これらは韓国の儒教文化の特徴とも言える血縁志向の結束が曖昧になっていることを証明することではないかと思われる。

今回の調査ではそうした伝統的な人間関係が頼りにならなかったという意外な結果が出たが、それは留学生本人の記憶にある親戚ではなく(対面頻度が非常に少なかったから)、親が信頼する親の親戚であることが明らかになった。

李さん(20歳、女性、就学ビザ、山野日本語学校)

私は4月に来日しました。今は叔母さんの家で生活しています。日本語がしゃべるようになったら、就職できるのではないかと思い、お母さんに相談したら、日本に住んでいる叔母さんがいるから行ってきなさいと言われました。叔母さんは私が本当に小さい時だけ会っていたので、私は叔母さんの顔も覚えていませんでした。不安気な私にお母さんは、お母さんの妹だから大丈夫だと言いましたが、知らない人の家に行くのは、とにかく落ち着かないことで

www.kci.go.kr

した。実際来て見て、不安は多少解消されましたが、自由に行動できないことと、韓国語を知らない甥たちに圧倒され、ストレスが溜まっています。お母さんに相談して、一人暮らしをしようと思っています。でも、一人暮らしはきっと寂しいですよね。

金さん(28歳、女性、ワーキング・ホリデービザ、インターカルト日本語学校)

私は大学卒業後、貿易会社で働いていました。小さい頃から日本のアニメが好きで…3回くらい日本に来ていました。また、遠い親戚ではあるが親戚もいたので、一人で来日しました。今年3月に来日してから、ずっと親戚の家で泊まっています。親戚は3人家族で、叔母さんと日本人の夫、そして23歳の娘がいました。親戚の叔母さんとお母さんは幼い頃、一緒に遊んだりして親しくしていたようですが、私とは一度も会ったことがなく、まったく他人でした。5月のある日、私は信じられない光景を目の前にして、ショックを受けました。他の日本の家庭はどうか分かりませんが、姪にあたる娘は社会人ですが、自分のお父さんに家賃としてお金を払っているのを目撃してしまいました。私はそれを見て、親戚に一人暮らしをすると言いましたが、私には家賃なんか要らないと言われました。しかし、気になってしょうがないです。専門学校に入学したら、一人暮らしをしようと思っています。

李さんと金さんは今、日本に住んでいる親戚の家に住んでいるが、2人とも韓国の親戚とは違う感覚を語っている。つまり留学生本人の記憶にある親戚でないから、思うがままに行動ができなかったり、生活習慣の違いに悩んでいるのである。それは親戚とはいえ、他人であることを物語っている。そして2人揃っていつか、親戚の家から出ようと言っていることは親戚といっても心理的に不便を感じている証拠である。

しかし、重要なのは来日してすぐ、暫く親戚の家で泊まるということは留学生の親にとっても、留学生本人にとってもこれより心強いことはないだろう。上の2人はしぶしぶ話していたが、誰もいない留学先で一人暮らしをしている他の留学生たちよりはましであろう。まず親戚という存在は来日する前から作られているソーシャル・サポートが期待できるパーソナル・ネットワークである。

4.3.2 日本語学校とキリスト教会でのパーソナル・ネットワーク形成

日本に親戚がいない留学生が来日してから最初に出会う人はそれぞれ違うと思うが、最初に出会う人として思われるのは、大家さんであり、その次がルームメートや寮の人たちである。しかし、今回の調査で大家さんが留学生たちの頼りになることはなかったし、寮の人たちも頼りにはならなかった。またルームメートが頼りになると答えた人は431人中13人しかいなかった。こうした結果から考えると、留学生が来日してから初めてパーソナル・ネットワークを形成する場所として挙げられるのは日本語学校である[27)]。

www.kci.go.kr

27) 来日した多くの留学生たちが日本語学校で頼れるパーソナル・ネットワークが作られたと答えている。し

来日して間もない頃、様々な戸惑いを抱えている留学生にとって日本語学校は同じ立場の人たちが生活している場所であり、日本語だけでなく、日本社会を学ぶ最適な場所なのである。同じ立場だからこそ、心理的な同質感が感じられ、お互いに助け合ったり、頼りになろうとするのである。今回の調査で104人の人が日本語学校の人が頼りになると答えた(日本語学校には世界各国から来日した留学生たちが勉強しており、クラスの仕分けは、試験の成績によって上・中・下クラスに配置される。それゆえ、韓国人だけのクラスとか中国人だけのクラスなどは存在しない。比較的中国人が多いということはあるが、日本語学校のクラスは国際的なのである)。

ちなみに、日本語学校がパーソナル・ネットワークを形成する場所として認識されるのは韓国人留学生たちだけの現象ではなく、中国人も同じだった。特に一人っ子政策を実施している中国人留学生たちは日本に留学する前から日本に親戚がいるか、一人で来日し、日本語学校でパーソナル・ネットワークを作っていることが分かった。以下は中国人留学生たちのインタビューである。

姜さん(首都大学東京人文科学研究科博士3年、女性、中国「朝鮮族」)

私は一人で来日し、日本語学校で5人の友達ができました。高校の時から日本語は勉強していたので言語的には心配はなかったですが、人脈が一人もいないので不安でした。しかし日本語学校に行くと中国人がいっぱいいたのですぐ友達になり、学校の生活もすぐ慣れました。今は妹も来ていますが、妹は私が日本にいるから何の心配もなく私の部屋で生活しています。彼女は家族っていいなといつも言っています。

楊君(首都大学東京社会学修士1年、男性、中国)

親戚がいる場合は親戚に頼りますが、普通は日本語学校で友達を作ります。日本語学校で知り合った友達の友達がまた友達になり様々な情報を交換します。来日してすぐは行動範囲も狭いから、日本語学校で人脈を作ると思います。

杜さん(首都大学東京人文科学研究科博士2年、女性、中国)

私の場合も同じです。日本語学校で出会った友人が一番の頼りでした。

それから留学の初期段階(日本語が話せない時期)の留学生にとって出会いが少ないのは当然のことである。この時期に留学生にとってキリスト教会という存在はかなり魅力的な場所なのである。なぜなら教会に行けば話したいことが韓国語で自由に話せるし、韓国料理

かし、本論文で日本語学校を詳しく述べなかった理由は、調査しなくてもその結果が分かるからである。つまり、日本語学校という場所は、あまり努力しなくてもパーソナル・ネットワークが形成される場所であり、自然に友達が作られる場所だから調査する必要がなかった。

www.kci.go.kr

が食べられ、また先輩たちから貴重な情報が頂けるだけでなく、ソーシャル・サポートが期待されるパーソナル・ネットワークまで形成されるからである。以下は筆者(2009)の論文のインタビューした内容である。

Y教会で一般の信者たちの生活を観察して見ると、いわゆる、平信徒指導者「筍長[28]」、「補助筍長」、「熱心な筍員」と呼ばれている人たちの生活は、まさに布教者そのものなのである。ではなぜ、今まで普通に信仰生活を営んで来た一般の信者や非信者たちが嫌な顔もしないで布教者のような生活をしているのか。その理由は、この教会でやっているすべてのプログラムが留学生たちの必要に十分に応じられているからである。

まず、来日した留学生は成田空港に到着するやいなや、言葉の壁にぶつかって戸惑いがはじまる。その時、親切な韓国の先輩が現れ、助けの手になってくれる。顔も名前も分からない人が、同じ民族であるというだけの理由で、これから生活する寮まで一番安くて、早く着く方法を説明してくれるだけではなく、荷物まで分けて寮まで一緒に同行してくれる。また、国で心配している親を安心させるために、到着報告の国際電話までかけてくれる。電話を受けた親は先輩に感謝の意を伝え、これからの子供のことを頼んだり、先輩の名前や田舎の実家の電話番号を聞き、先輩の親に感謝の意を伝えたりして、お互いの信頼感を確かめる。新しい留学生はすっかり先輩に惹かれて、留学生活全般にかけて影響を及ぼし、また頼る存在となる。

知らない人に助けられた留学生の中には、彼が帰ると、顔も知らない人なのになぜ、私に親切だろうと疑う人もいるが、戸惑っていた時の彼の行動は嬉しい限りであるので、余計なことは考えないで、彼の親切な行動に感謝し、彼と約束した日曜日にY教会に出席することになる。このようにして、歳月がすぎ、留学生はやがて筍長になり、また時には宣教師になってゆくのである。(鄭　2009:234　235)

林さん（27歳、男、 東洋言語学院）

私は、2007年8月に来日しました。結婚して2ヶ月も経ってないうちに来日しました。僕は日本留学など考えたこともなかったですが、妻と出会ってから留学について考えるようになりました。妻は21歳ですが、高校時代から美容に興味があって、日本留学を少し考えたそうです。しかし、彼女はどうせ留学するならアメリカだと思って日本語の勉強はしてなかったですが、高校卒業後、美容室に就職したら先輩たちが日本のことを口にするし「韓国の流行りは、ほとんどすべてが日本からだ」と言われ、日本留学を決意したそうです。

---

28) Y教会で一番小さいグループが筍である。筍は筍長がいて始めて筍と呼ばれるようになる。筍は筍長自身が伝道活動を通して伝道した人たちを自身の筍員として編入させて築き上げる組織であって、筍長自身の努力次第で筍員の数は変わる。つまり、筍に筍員が少ない場合、筍長と筍員2人で構成される場合もあれば、多い場合は20人で構成される場合もある。最悪の場合、筍長だけいる場合もある。この教会の筍は、普通4～6人で構成されている。

www.kci.go.kr

私は彼女に一発で惚れてしまい、どうしても彼女と結婚したかったです。彼女は私に仕事を辞めるまで留学する必要はないと言っていましたが、彼女一人で留学をさせるのは危険すぎると思い、仕事を辞め、結婚して来日してしまいました。家族や周りのみんなは彼女の背景など知らなかったので、凄く心配してくれました。すごく悩みましたが彼女が好きだったので結婚を決意して、来日した訳です。来日前のソウルのキンポ空港までは、韓国語で話しましたので何の問題もなかったですが、羽田空港に着いてから国際迷子になったような経験をしました。お互い日本語の勉強などしてなかったのでとても不安になりました。空港内で迷っていたら、今通っている教会の先輩に出会いました。先輩の旅行バックと私の旅行バックがまったく同じものだったので、お互いバックの取り合いになったのです。中身をみると先輩のものでした。笑うほど変な縁でしたが、先輩に色々な世話を焼いてもらっています。

先輩に出会って、教会もアルバイトも一緒にする間柄になりました。しかも住まいも先輩に紹介され、先輩が住んでいる近くに引っ越しました。先輩は妻と同じ目的を持って来日している教会の留学生たちを、妻に紹介してくれました。私夫婦はこれほど面倒を見てもらった経験がなかったので大変驚いています。思いもよらない出会いだったので、これは神様からの贈り物だと思います。また、先輩だけではなく、手厚い援助をしてくれる教会の人たちに心から感謝しています。私夫婦は、日本に来てはじめて、教会の意味、先輩の役割、助け合いの大切さ、コミュニティーの大切さに気が付きました。

韓国系キリスト教会は留学生たちの信仰・礼拝だけを担当しているのではなく、留学生を含む移民社会情報交換の場所として、またパーソナル・ネットワークが形成される場としての機能を果たしている。キリスト教会は、韓国人留学の初期から今に至るまで[29]移民者や留学生を持続的に面倒をみてくれた唯一の機関なのである。

4.3.3 インターネットによるパーソナル・ネットワーク形成

今回の最大の発見というのはインターネットによるパーソナル・ネットワーク形成である。奥田道大(1991、1993)の調査では有線電話を利用する留学生たちが描かれており、また栖原暁(1996)の調査でもインターネットという用語は使われていなかった。その時期はまた携帯電話もインターネットも留学生の間では普及していなかったため、インターネットによる連絡やパーソナル・ネットワーク形成という概念がなかった。

インターネットの普及は、一昔前の留学生と、今の留学生のライフスタイルを180度変えたと言っても過言ではない。今の韓国人留学生たちは来日する前も、そして来日してからも必要な情報の検索はもちろん、家族、友達との連絡を殆どインターネットでこなしている(387人)。また新しいパーソナル・ネットワークもインターネットサイトを通して形成している。

ID：Oo이재성oO http://cafe.daum.net/japantokyo/4ulc/1271

www.kci.go.kr

29) 在日大韓基督教会東京教会(1980)『東京教会七一年史』、크리스찬新聞社工務局、pp119-134

お会いできて嬉しかったです。多くない人数でしたが、だからこそ、お互いに深い話ができたと思います。ピルジュンさん、ヘジョンさん、ヒソンさん、お会いできて嬉しかったです。家までは無事に着きましたか？私は無事に着きました。年も年ですから体に気を付けてください。今度の集まりにもまたお目にかかればと願っています。次回はもっと多くのメンバーが集まればいいですね。
PS、ヘジョンさんこれからもよろしく。今日は皆飲み過ぎですよ。くれぐれも
☞ここから下は会員たちのコメント
ID：별탱이：次回はいつですか?
ID：이필준：ゼソンさんお疲れ様でした。年下なのに落着きがあって感動しました。今度の集まりには、友達とか呼んで大勢の人が集まるように頑張りましょう。

ID：파란케찹　http://cafe.daum.net/japantokyo/4q9I/2090(主婦の掲示板)
思ったより大勢の人が集まっていることに驚きました。初めての方々でしたが、お会いできて嬉しかったです。やはり韓国人主婦は強いですね。ルノアールというコーヒーショップ全体をまるで貸し切り状態にしましたね。何よりも、ケイコさんの話はとても面白く、腹の底から笑いました。はじめての日本生活に戸惑い、辛くて寂しい思いをしていましたが、今日この集まりに参加して話を聞いていると、私だけが苦労している訳じゃないことにとても癒されました。皆、異国で頑張っている話を聞いて、私も頑張ろうと思いました。来日する前の気分に戻った感じです。これからも、この集まりが持続できればと思いますし、今日は本当にありがとうございました。旦那さんのご飯のせいで、最後まで一緒に行動できなかったことが気になりますが、今度は最後まで付き合うようにします。今、風邪気味で、喉も痛いし、鼻水が止まりません。風邪引かないよう体に気を付けましょう。
☞ここから下は会員たちのコメント
ID：나초이：有益な時間だったようですね。私も風邪じゃなかったら、いや雨さえ降らなかったら参加できたものの…来週は必ず参加します。風邪、早く治ればいいですね。
ID：김미옥tama：私もお会いできて嬉しかったです。久しぶりに子供たちから解放されて良かったです。そして、私もこの集まりで勇気をもらいました。異国で体壊さないように気を付けましょう。来週も楽しみです。
ID：포핀스：私、今日の朝から、昨日教えてもらった太ももの運動を10回やってアルバイトに行きました。昨日はとても楽しかったです。来週楽しみに待っています。

このように、今は留学生だけでなく、来日歴の短い主婦たちもインターネットサイトを利用して匿名の人たちと連絡を取っており、しかも直接会っていることが確認できた。

筆者は今回の質問紙にインターネットを通じて知り合った人と直接会ったことがあるか聞いた。その結果、431人中、83人が直接会ったと答えた。さらに83人に対しインターネットを通じて繋がった人脈が実際の生活に役に立ったのかという質問をした。すると、59人が助

www.kci.go.kr

かったと答えたが、18人は別に何の役にも立たなかったと答えた(7人は無回答だった)。このようにインターネットの登場は、かつては想像もできなかった対面接触なしのパーソナル・ネットワーク形成を可能にしたのである。しかし、このようにして知り合った人たちが継続的に会っているかどうかは確認できない。

4.3.4　スポーツ同好会や国際交流会の参加によるパーソナル・ネットワーク形成

留学してからパーソナル・ネットワークが形成される場所として留学生たちが他に挙げたのが、スポーツ同好会と国際交流会であった。しかし、留学生たちがスポーツ同好会に参加するまでには随分と時間がかかるようである。スポーツ同好会というのは趣味を楽しむ集まりであるが、趣味というのは生活での安定なしにはなかなかできないことであることは常識である。今回インタビューに応じてくれた2人は、大好きなサッカーと卓球が異国で、できるまで約 1 年以上もかかったと語っている。

金さん(27歳、男性、秀林日本語学校)

私はサッカーが大好きですが日本に来てから1年間一回もやったことがありません。時々高校生たちが学校でやっているのを見て一緒にやろうと学校に入ったら不法侵入になりとてもつらい経験をしました。韓国では学校など自由に出入りできるのに。公園などで一人サッカーをしましたが面白くなかったのでやめました。来日したばかりの時は公園に行って練習をしていましたが、アルバイトを始めたら疲れたせいもあり、1年間ボールを触ってないです。

日本に来て驚いたのが、日本のフットサルの雑誌です。これほど詳しい情報が載っているフットサル雑誌は日本が初めてでした。サッカーの練習はできませんでしたが雑誌を見て代理満足していました。たまにこの雑誌のことをブログに書いたりしましたがある日、日本の大学院に通っている韓国人留学生が僕のブログを読んだようで「よかったらチームに入りませんか？」というメッセージがメモ帳に書かれていましたのでとても嬉しくなりました。日本に来て1年3カ月経って初めて他の人と練習ができました。今はその先輩と一週間で一回、特に土曜日が多いですが、試合に出たりしています。

李さん(29歳、男性、IT関連会社員)

私が東京ピンポン[30]を知ったきっかけはDaum　caféの「동경유학생모임」というサイトの掲示板でした。来日してから1年半近く、友達もいなく本当に詰まらない生活を送っていました。仕事はなんとかこなしてはいたものの、それ以外の生活では自分の存在感を失いつつありました。日本語も話せないのに、技術士として来日した私は、英語で通じるだろうという漠然とした思いで来日しました。そして、中途半端な英語は通じなかったです。仕事はやっとという思いでやっていましたが、買い物もうまくできず、休みの日は家で過ごすしかありませ

www.kci.go.kr

30) http://cafe.daum.net/Tokyo-pp?t__nil_cafemy=item

んでした。時々会社の韓国人同僚たちと食事などはしましたが休みの日は殆ど部屋でいました。とても寂しかったです。ある日、テレビで大好きな卓球競技を見て、ボールが打ちたくなり、必死な思いでインターネットを検索して見つけたのが東京ピンポンです。

東京ピンポンのお陰で、私の日本の生活が180°変わった訳です。私にとっては命の恩人みたいな存在です。日本に来て初めて、会社以外の場所、中野体育館にやって来ました。東京ピンポンの集まりに恐る恐る、参加して見ると、10人の会員たちが汗を流しながら卓球を楽しんでいました。卓球という繋がりで集まった人たちだけあってすぐ仲良くなりました。集まる人が決まっているわけではないが、会長と総務そして強い留学生2人が毎週来ていました。私はあまり強くないですが、毎週顔を出したのですごく仲良くなりました。今年の1月には会員たちと温泉旅行にも行ってきました。日本語ができないことは生活全体を通して自分を追い込む原因でした。もうちょっと早く、東京ピンポンに出会えたら、余裕をもって生活出来たのではと思いつつ、寂しかった一年半が過ぎて良かったと思っています。

スポーツ同好会への参加は、生活に余裕がないとなかなかできない活動であり、またスポーツ同好会は会員たちを拘束する力が弱い分、個人の参加意思によって同好会の存続が左右される自発的な集団であった。

上述の２人も、生活に追われ、忙しい毎日を送っていたせいで、大好きな趣味活動が１年以上も絶えていた。今回の調査結果を見れば分かるように、431人の留学生の中、たった2人だけがスポーツ同好会に参加しているほど、外国での趣味活動はすぐに、また誰でもができる簡単な問題ではなかった。しかし、この同好会に集まっている人たちは同じ目的で集まっているのですぐ親しくなったと証言している。これも留学生たちや移民たちが新しいパーソナル・ネットワークを形成する場であることに間違いない。

また、国際交流会に参加している人たちとはインタビューができなかったので、どういうことをやっているのか把握できなかった。しかし「동경유학생모임」で国際交流会の後書きを見てみると、一回性の交流会が多いという。つまり、国際交流会に参加すると、日本人との会話が出来て良かったとか、日本人の大学生たちとメールアドレスの交換ができて良かったと書いてあるが、ほとんどが一回限りの出会いに過ぎず、継続的な対面関係までは発展しなかったという特徴があった。しかしスポーツ同好会や国際交流会を通して、韓国人留学生のパーソナル・ネットワークが形成される場所も確認されたので、今後、詳しく調査する必要があると思われる。

5．結論

www.kci.go.kr

今回の調査で明らかになった韓国人留学生たちの特徴は、大学生より会社を辞めて留

学に来た社会人の方が多かったことや来日経歴も初めての人(114人)より、来日歴あり(2回:126人、3回:77人、4回:76人、無回答:38人)の人がもっと多かったということだった。飛躍かも知れないが、来日歴が3回以上になる人は日本に親戚がいるとしても留学院やインターネットを利用して一人で留学情報を得ていると思われる。今の韓国人留学生たちがパーソナル・ネットワークを作っている具体的な場所を表4)で纏めた。

表4) 留学前・後のパーソナル・ネットワークが形成される場所

留学前のパーソナル・ネットワーク形成	留学後のパーソナル・ネットワーク形成
・血縁・地縁のパーソナル・ネットワーク(7人) ・留学院でパーソナル・ネットワークが形成される(57人) ・インターネットサイトを通してパーソナル・ネットワークが形成される(83人) *括弧の数字は実数であり、無応答は示さなかった。	・日本語学校でパーソナル・ネットワークが形成される(107人) ・インターネットサイトでパーソナル・ネットワークが形成される(83人) ・キリスト教会でパーソナル・ネットワークが形成される(52人) ・ルームメートやアルバイト先でパーソナル・ネットワークが形成される(13人/12人) ・スポーツ同好会や国際交流会でパーソナル・ネットワークが形成される(12人)

今回の調査で一番意外だったのは、血縁・地縁・学縁という緊密で強い紐帯で結ばれている韓国人社会が、今はその機能が段々衰退しつつあることであった。今までの移民は家族や親戚などの身内を頼りにして移住する連鎖移住(Chain Migration)が常識だった。また血縁は誰よりも頼もしくて確かなパーソナル・ネットワークだったが、今回の調査ではその親戚が頼りになると答えた人は僅か7人で非常に少なかった。それに対し、顔も名前も知らない匿名の人たち、つまり同じ趣味・関心を持つ人たちが集まる架空の空間「インターネットサイト」を通して韓国人留学生たちは留学情報を得たり、パーソナル・ネットワークを形成していた。これはかつての留学生たちは経験したことのない新しいパーソナル・ネットワーク形成方法であり、またそれは、韓国社会が血縁・地縁・学縁という強い紐帯に頼らない社会へと変化していることを示唆している。

本論文では韓国系キリスト教会に関しては詳しく述べなかったが、筆者の修士論文を含め、先行研究で挙げた諸論文を総合すると、教会は時代の変化にも揺れず、留学生を含む移民社会のパーソナル・ネットワーク形成の重要な場としてのその機能を果たしていると思う。これらのことを全部含めて、今回の調査結果を整理すると以下の通りである。

第1、血縁・地縁に頼る時代は衰退しつつある。
第2、インターネットサイトから頼れるパーソナル・ネットワークは形成される。

www.kci.go.kr

第3、韓国系キリスト教会は時代が変わっても、教会に来る人たちに、ソーシャル・スキルをはじめ、ソーシャル・サポートの提供とソーシャル・サポートが期待されるパーソナル・ネットワークが形成される重要な場となっている。

この研究の限界は特定の国の留学生に限られた調査である点にあるが、日本国内で特定の国の留学生の実態がつかめたことにより、他国の留学生と比較する基準を提供した点にこの研究の意義があると思われる。つまり、日本で生活している他国の留学生たちのパーソナル・ネットワークの形成方法を比較することで、各国の留学生たちのパーソナル・ネットワークの形成過程の実態が明らかになると思われる。また、研究対象を留学生だけでなく一般人に広げて調査する必要と、日本以外の外国での韓国人のパーソナル・ネットワークの形成過程を比較することで、韓国人のパーソナル・ネットワークの形成過程のパターンが明らかになると思われる。

次回は、今回の調査で明らかになったインターネットの役割をM・グラノヴェター[31]が用いた、強い/弱い紐帯の概念をインターネットサイトに適応し、韓国人留学生たちがインターネットサイトをどのように使い分けて利用しているのかを「Daum Cafe」の「東京留学生会[32](동경유학생모임)」とサイワールド(cyworld、싸이월드[33])を例にし、比較しようと思っている。

31) M・グラノヴェター著、渡辺深訳(1998)『ミネルヴァ書房、p52
32) http://cafe.daum.net/japantoky동경유학생모
33) http://www.cyworld.co.kr

www.kci.go.kr

유학생 조사

1. 나이
2. 성별(남, 여)
3. 일본에 온지 얼마나 되었는가?
4. 현재 재류자격은?
5. 일본에 오는데 부모님의 반대는 없었는가? 있었다면 왜 반대했는가?
6. 부모님의 직업과 학력은?
7. 가족 현황은?
8. 한국에서의 자신의 가정환경은 상, 중, 하로 구분한다면?
9. 일본 오기 전 자신은 무엇을 하고 있었는가?
10. 일본은 몇 번째 방문인가? 첫 번째 방문 이라면 일본에 대한 구체적인 정보를 어떻게 구했는가?
11. 일본에는 친척이 있는가?
12. 친척이 있었다면 친척들을 통해 무슨 도움을 받았었는가?
13. 일본에 의지할 만한 친구 등이 있는가?
14. 어떤 친구들 인가(학교, 종교, 단체에서 만난 사람인가)?
15. 얼마나 자주 만나고 있는가?
16. 친척, 친구가 없이 일본에 온 것이라면 어떤 경위를 통해 일본에 온 것인가?
17. 인터넷 검색을 통한 알게 된 사람들 등이 있는가?
18. 인터넷을 통해 알게 된 인맥이 실제로 도움이 되고 있는가?
19. 정기적으로 참석하고 있는 단체나 종교 등은 있는가?
20. 정기적 이라고 하면 얼마나 빈번하게 참석하고 있었는가?
21. 참석하고 있는 단체나 종교가 있다면 어떠한 단체 종교인가?
22. 참석해서 얻는 것이 있다면?
23. 한국인 교회에 가본적이 있는가?
24. 한국의 가족과는 정기적으로 연락을 하고 있습니까?
25. 한국에서 금전적인 지원을 받고 있는가? 받고 있다면 얼마나 지원 받고 있는가?
26. 학비는 누가 부담하고 있는가? 학비는 한 학기에 얼마인가?
27. 갖추고 있는 가전제품은 무엇 무엇입니까?
28. 모두 구입한 것 입니까?
29. 물려 받은 것이라면, 누구에게 물려 받은 것 입니까? 그 사람과는 어떤 관계입니까?
30. 아르바이트를 하고 있는가? 하고 있다면 무슨 아르바이트를 하고 있는가?
31. 아르바이트는 혼자서 찾았습니까? 아니면, 다른 사람에게 소개 받은 것입니까?
32. 소개한 사람과는 어떤 관계입니까?
33. 한달 수입은 얼마나 되는가? 한 달 수입은 충분하다고 생각하는가?

www.kci.go.kr

34. 방은 혼자서 찾으셨습니까? 아니면 다른 사람이 소개했습니까?
35. 소개한 사람과는 어떤 관계입니까?
36. 현재 혼자서 생활하고 있는가? 혼자서 생활 한다면 한 달 방값은 얼마인가?
37. 복수의 사람들과 생활 하고 있다면, 방의 개수는 몇 개며, 방값은 얼마씩 부담하고 있는가?
38. 복수의 사람들과 생활하고 있다면, 그 사람들과 자신은 어떤 관계이며, 어떻게 알게 되었는가?
39. 일본에 와 생활 하면서 이러한 점은 정책적으로 개선되어야 할 점이라고 생각하는 것이 있는가?
40. 일본에 와 좋았다고 생각 되는 점은?
41. 지금 현재 가장 의지가 되는 사람이 있습니까?
42. 그 사람과는 어떤 관계이며, 어떻게 알게 되었는가?
43. 일본에 얼마 정도 있을 예정인가?
44. 일본에 정착하고 싶은 생각은 있는가?
45. 조국이 싫어졌는가? 그 이유는 무엇인가?
46. 애국심이 강해졌다고 생각하는가? 그 이유는 무엇인가?
47. 남자 군대 제대자)군대에 있을 때와 비교해 애국심이 어떻게 변하였는가?

www.kci.go.kr

【参考文献】

—韓国人著者—

高鮮徽(1997)「済州島から横浜へ—1980年代来日者の試み—」『都市エスニシティの社会学』ミネルヴァ書房

金範洙(2006)『近代渡日朝鮮留学生史—留学生政策と留学生運動を中心に—』東京学芸大学、大学院博士論文

金泳謨(1982)『留学生に対する一考「朝鮮支配層研究」』一湖閣、 p 420～423

김인덕(1989)「日本地域留学生の2·8運動と3·1運動」『韓国独立運動史研究13』、独立記念運動史研究所、p4

Kwon、Victoria Hyonchu. 1997. Entrepreneueship and Religion: Korean Immigrants in Houston. Texas. New York and London、 Garland Publishing、 Inc: 114 116

朴鶴哲(1998)『旧韓末在日韓国留学生に関する考察』慶星大学校教育学碩士学位論文、p3

林永彦(2004)『韓国人企業家』長崎出版

Yoo、 Jin Kyung. 1998. Koran Immigrant Entrepreneurs: network and ethnic resources. New York & London、 Garland Garland Publishing、 Inc

在日大韓基督教会東京教会(1980)『東京教会七一年史』、크리스찬新聞社工務局

鄭根河(2009)「日本における韓国教会の成長要因に関する研究」『日本文化学報』第41輯、韓国日本文化学会

鄭根河(2010)『東京における韓国人留学生のパーソナル・ネットワーク形成過程の分析—頼れるパーソナル・ネットワークはどこで作られているのか—』、首都大学東京人文科学研究科博士論文

—日本人著者—

池田謙一(1997)『ネットワーキング・コミュニティ』東京大学出版会、p10

奥田道大/広田康生/田嶋淳子(1994年)『外国人居住者と日本の地域社会』明石書店、p129

奥田道大 田嶋淳子(1991)『池袋のアジア系外国人』めこん

_____(1993)『新宿のアジア系外国人』めこん

川上善郎・川浦康至・池田謙一・古川良治(1993)『電子ネットワーキングの社会心理:コンピュータ・コミュニケーションへのパスポート』誠信書房

田村紀之(1981年2月～1982年7月)「内務省警保局調査による朝鮮人人口」『経済と経済学』内閣統計局『国勢調査報告』

谷富夫(2002)『民族関係における統合と分離』ミネルヴァ書房

田嶋淳子(1998)『世界都市・東京のアジア系移住者』学文社

東京地方職業紹介事務局(1925)『土工紡績工鉱夫としての朝鮮人労働者』

www.kci.go.kr

原尻英樹(1989)『在日朝鮮人の生活世界』弘文堂
宮田加久子(2005a)『きずなをつなぐメディア』NTT出版
(2005b)『インターネットの社会心理学―社会関係資本の視点から見たインターネットの社会機能』、風間書房
森岡清志(2000年)『都市社会の人間関係』放送大学教材、p19　20
栖原暁(1996)『アジア留学生の壁』日本放送出版協会

―他の外国人著者
Hechter、Michael、1999、Internal Colonialism: The Celtic Fringe in British National Development、University of California Press.

―インターネットサイト―
http://www2.ttcn.ne.jp/~honkawa/index_rank.html　社会実情データ図録のホームページ(2009年11月検索)
Source : Korea National Statistical Office、「2005 Population and Housing Census Report」
http://211.34.86.121:8092/nsiiu/view/stat.do?task=viewStatTbl&act=new&tblid=DT_1IN0505&orgid=101&path=주제별%20>%20인구가구%20>%20인구총조사%20>%20인구부문%20>%20총조사인구(2005)%20>%20전수부문&prdse=F&startprd=2005&endprd=2005&language=kor&vwcd=MT_ZTITLE(2009年11月検索)
http://www.aikgroup.co.jp/j school/japanese/index.htm 全国日本語学校データベース
http://www.kosaworld.org/(2009年11月検索)
http://home.ebs.co.kr/x/index.html 教育放送EBSでは「リアル実験プロジェクトX」
http://www.moj.go.jp/NYUKAN/nyukan67　2.pdf(2009年11月検索)
http://211.34.86.121:8092/nsiiu/view/stat.do?task=viewStatTbl#　韓国統計庁(2009年11月検索)
韓国教育人的資源部(Ministry of Education & Human Resources Development)、2005～2008年高等教育機関卒業者就業統計調査結果発表
http://cafe.daum.net/japantokyo

www.kci.go.kr

要 旨

産業化、都市化の進展に伴い増加した人々の空間移動が、人々の集団に対する帰属感にもたらした変化は都市社会学において重要なテーマであった。中でも、留学という空間移動は、母国で形成した多くの人間関係が断たれてしまうことから、新しいパーソナル・ネットワークの形成を余儀なくされる重大な契機となる。つまり、留学する前までは、家族、親戚、友人、地域集団、学校とこれに関連した集団、社会および社会内外の諸組織に所属し、人間関係を形成しながら円満な生活を送っていたのに、留学することによってすべての人間関係が断絶され、戸惑うことはよくあることである。

そこで、筆者が疑問に思ったのは、留学生たちは来日する前、どこで留学の情報を得ていたのか、それから日本には頼りになる人がいるのか、また、来日してからはどこで、どうやってパーソナル･ネットワークを形成しているのか、再構成されたパーソナル･ネットワークはどうやって維持していくのかであった。本研究ではそうした疑問に焦点をあわせ、分析を行った。

キーワード : 韓国人留学生、連鎖移住(Chain Migration)、留学院、キリスト教会、インターネットサイト、パーソナル・ネットワーク形成

투　　고 : 2010. 2. 28
1차 심사 : 2011. 3 .19
2차 심사 : 2011. 4. 2

www.kci.go.kr